



『がん細胞について』

人間の体は、60兆個の細胞から出来ていると言われています。1個の細胞が2個に分かれ（分裂）、数を増やし（増殖）、古くなった細胞は死んでいきます。

しかし、喫煙、飲酒、紫外線、食習慣の欧米化、ウイルス（ヒトパピローマウイルス、C型肝炎ウイルスなど）、遺伝的要因などにより細胞の遺伝子が傷つくと、細胞がどんどん分裂を繰り返し、細胞が死ななくなることがあります。これが、がん細胞です。

がん細胞は、周りにある細胞を破壊しながら広がり（浸潤）、遠くの場所に移動します（転移）。浸潤の程度により、早期癌、進行癌が区別されます。

私達は、毎日数千個の細胞の遺伝子が傷ついています。免疫・自然治癒力により排除する事が出来ますので、遺伝子が傷ついたからと言って、すぐに癌になるわけではありません。また、早期癌であれば、がん細胞の分裂・増殖のスピードはゆっくりです。

がん細胞を増やさないためには、日常生活からがん細胞を作る原因を取り除き、がん検診などによる早期発見が大切です。



鹿児島厚生連病院
病理診断科医長 松木田 純香